

サマリア最新機能の概要と競合比較

サマリアの新機能概要（2025年後半～2026年初頭）

特許読解支援AIアシスタント「サマリア」は、2023年4月にリリースされて以来、知財実務者向けに特許文書の要約作成や用語説明、関連文書比較などをAIで支援してきました¹。開発者が弁理士である強みを活かし、**プロンプト（指示文）のテンプレート化や自動化**によってユーザーの負担を軽減する設計になっており、複雑な操作なしに**明細書の要点把握やクレーム構造解析**が可能です²。2025年後半から2026年初頭にかけて、サマリアには以下のような革新的機能追加が行われました。

- ・**拒絶理由対応ワークフロー**（2024年5月導入）：特許庁からの拒絶理由通知に対する対応業務を支援するワークフロー機能です³。拒絶通知の認定内容整理、引用文献との対比検討、減縮（補正）ポイントの提案、対応方針コメント作成、さらには意見書案・補正書案のドラフト生成まで一連のプロセスをAIがアシストします⁴⁵。この機能にはAnthropic社のLLM「**Claude 3-Opus**」が採用されており、高精度な応答方針案の生成を実現しています⁶。出力結果はWordやExcel形式でダウンロード可能で、既存業務フローにも組み込みやすく配慮されています⁷。
- ・**レポート機能**（2025年9月リリース）：特許調査・分析結果を自動整理し**可視化**する新機能です⁸。複数の特許文献セットに対し、AIが回答した要約結果から**グラフやマトリクス**をワンクリックで生成します。例えば、生成AIが付与した独自の分類ラベルをクロス集計し「課題×解決手段マトリクス」を作成したり、関連特許を類似度順に抽出する「AI検索」を行うことも可能です⁹¹⁰。これにより、従来は手作業で時間を要した**パテントマップ作成やポートフォリオ分析**を飛躍的に効率化でき、「読む調査」から「見える化された分析」へと体験を変革しています¹¹¹²。実際に知財業界でも大きな反響を呼び、「**特許読解作業時間を最大80%短縮**」（従来比）との評価も得ています¹¹³。特に**グラフ化された独自分類結果**により戦略的示唆を直感的に得られる点が専門家から高評価を受けました¹⁴。
- ・**大規模言語モデル（LLM）の選択対応**（2025年後半アップデート）：サマリアは元々OpenAIのGPT系モデルを基盤に要約生成を行っていましたが、2025年8月のアップデートで**最新モデル「ChatGPT GPT-5」**を正式に搭載し、出力品質の向上を図りました¹⁵。さらにユーザーからの要望に応え、**Anthropic Claude**シリーズなど**複数種のLLMから用途に応じてモデルを選択できる機能**が追加されています⁶¹⁶。例えば、「クイックアシスト」機能やAIチャット回答のエンジンをGPT-4からGPT-5に切り替えたり、長文処理や日本語対応に優れるClaudeを選ぶ、といった柔軟な使い分けが可能になりました（※現時点でGoogleの**Gemini**について公式発表はありませんが、将来的な対応も示唆されています）。モデル選択はサマリアのユーザーメニューや設定画面から行え、**作業内容やコストに合わせて最適なAIエンジンを切り替えられる設計**です¹⁷¹⁶。
- ・**明細書ドラフト作成機能**（2026年リリース予定）：2026年に向けたロードマップ上で、特許明細書（出願書類）のAI自動作成支援機能が予告されています¹⁸。これが実現すれば、調査・分析だけでなく**発明提案から明細書作成、拒絶対応まで**知財業務のワークフロー全域をサマリアでサポートできるようになります。既に先行する草稿生成ツール（後述のTokkyo.AiやAI Samuraidなど）がありますが、サマリアは**実務家の知見を盛り込んだ高品質なドラフト**を提示することを目指しています。

以上の新機能強化により、サマリアは単なる要約ツールの域を超えて「**調査・読解から分析・報告書作成まで**」一貫支援できる総合サービスへと進化しています¹⁹²⁰。2025年にはその革新性が評価され、「中小企

業優秀新技術・新製品賞（ソフトウェア部門）優良賞」や「IP BASE AWARD」受賞など外部評価も獲得しました²¹。

【画像】サマリア公式キャラクターと画面例（第4回IP BASE AWARD受賞、第37回中小企業優秀新技術・新製品賞(ソフト部門)優良賞受賞)



サマリアのLLM選択機能と対応モデル

サマリアが選択可能なLLMモデルとして確認されているのは以下の通りです。

- ・**OpenAI GPT系モデル**: 現在は**GPT-5**が主力で、従来のGPT-4（GPT-4O=Omni）から順次アップグレードされています¹⁵。GPT-5は汎用的な高性能モデルで、特許文書の難解な表現も的確に要約・回答できる精度が強みです。OpenAIの最新モデル採用により、**要約や回答の質が向上した**との報告があります¹⁵。一方でモデル使用コストが高いため、必要に応じて以前のGPT-4系列を使う選択も可能です。
- ・**Anthropic Claude系モデル**: 2024年時点で**Claude 3 (Opus)**がサマリアの一部機能に採用されています⁶。Claudeは長文処理能力や日本語のネイティブな応答で定評があり、特に**拒絶理由通知の解析・対策**など大量テキストを扱うワークフローで威力を発揮しました⁶。Claudeを選択した場合、**長大な明細書や複数文献の一括解析**でも安定した結果が得られる利点があります。AnthropicモデルはOpenAIに比べトーンが穏やかで、日本語の丁寧さやプライバシー設定を好むユーザーに支持されています。
- ・（参考）**Google Gemini**: Googleの次世代LLM「Gemini」については、2025年末に強力な競合モデルとして台頭しており²²、**ClaudeやGPTを凌ぐ性能**との評価も出始めています²³。サマリア公式にはGemini対応の明言はないものの、業界では**ChatGPT一強からClaude・Geminiを含む群雄割拠**の時代に移行しており²⁴、今後サマリアがGeminiや他のモデルを追加する可能性も十分考えられます。Geminiはマルチモーダル能力や論理推論力の特徴と言われ、**より高難度の技術文書理解や画像付き特許の解析**などで力を発揮することが期待されています。

サマリアでのモデル切替は、基本的に**ユーザーメニューで希望モデルを選ぶ方式**です。たとえば「AIアシスタント設定」から「**GPT系（デフォルト）**」「**Claude系（オプション）**」などプルダウンで選択し、以降の回答生成にそのモデルが適用されます（社内検証版として選択UIが提供されている旨が伝えられています）。

モデルにより回答の文体や得意分野に差が出るため、ユーザーは質問内容や目的に応じてモデルを使い分けています。例えば、「広範な技術概要を高速に俯瞰したい場合は高性能なGPT-5」、「長い拒絶理由通知書を細かく解析したい場合は長文に強いClaude」といった選択が可能です。料金プランへの影響としては、**高度なモデルを使う場合は上位プラン契約や追加クレジット消費が必要になる場合があります**。実際、競合サービスのPatentfieldでは生成AIオプション利用時に「**使用モデル別に処理件数上限**」が設定されており、軽量モデルなら多数文献を処理できる一方、高精度モデルほどコスト高で処理件数が限られる例があります²⁵。サマリアでもビジネスプラン以上で高性能モデル利用が可能になるなど、プランごとに利用できるモデルやAPI呼び出し回数を調整していると考えられます²⁶。総じて、**LLM選択機能は「精度優先」か「コスト優先」かをユーザー側で最適化できる柔軟性**をもたらしており、実務者からは「用途に応じたモデル使い分けでAI活用の幅が広がった」と好評です。

主な競合ツールの最新動向とAIモデル採用状況

サマリアと同様に**特許調査・読解支援**に生成AIを活用するツールとして、以下の主要サービスが存在します。

- ・**Patentfield（パテントフィールド）** – AI特許検索・分析プラットフォーム：豊富な特許データベースと高度な検索・分析機能を持つ国産サービスです。2023年より生成AI機能「Patentfield AIR」を提供し、サマリア類似の**要約生成・比較・分類付与**機能を追加しました²⁷²⁸。特筆すべきは**自社DB内の8000万件以上の特許公報に対しAI要約を事前生成・構造化**し、「用途・課題・効果・特徴」の4観点でラベル付けした**“AIサマリー”機能**です²⁹³⁰。これによりユーザーは任意の特許を**即座に平易な要約文で閲覧**でき、特許を「読む」のではなく「見る」感覚で俯瞰できるようになりました³¹³²。さらにAIサマリーを全文検索対象とすることで、専門用語を知らなくても日常語で関連特許を検索可能になっています³³³⁴。分析面でもAI付与ラベルを用いた**用途×課題マッピング**機能が強化され、技術分野ごとの出願動向を視覚的に把握できます³⁵（下図参照）。

【画像】 Patentfieldの生成AI要約・分析機能の例（用途×課題マッピング図）



Patentfieldのモデル選択: Patentfield AIRでは利用するLLMを複数候補から選択可能な設計となっています¹⁶。例えば社内検証用にOpenAIのGPT-5.1系（Nano版など）やGPT-4、他社LLMを組み込み、ユーザーが精度と速度を勘案して切り替えられる仕組みです。公式発表では「GPT5.1-nano」を用いた処理で試用提供している旨が記載されており、約2000件の公報を自動処理できるとされています²⁵。これは高精度モデルの簡易版を大量処理向けに用いることで**コストと実行スピードのバランスを取っている**ことを示唆します。Patentfieldはもともと検索・分析に強みを持つため、**検索特化型の尖った機能**（高度なブール検索やグラフAIによる類似特許探索など）も組み合わせ、広範な特許調査に対応します¹²³⁶。その一方でサマリアのような対話的な読解支援（チャット質問対応）は限定的であり、**自動レポート生成や日本語UIの手厚さではサマリアに一日の長がある**との指摘もあります¹²³⁷。なお、Patentfield社とサマリア開発元の特許・イ

ンテグレーション社は生成AI関連特許を巡り係争中であり（2024年～）、互いに機能競争が激化しています
27 38。

・**Tokkyo.ai（トッキョウAI）** – プライベート特許検索ツール: AOSデータ社グループが提供するサービスで、企業内に閉じた特許情報検索・出願支援環境を特徴とします。**特許明細書のドラフト自動生成機能**に早くから着手し、2023年9月に各明細書項目（背景や実施例等）の生成AI補助を実装³⁹。続く2024年6月のアップデート「Genesis」では**OpenAIのChatGPT-4o**を組み込み、「**生成AI Plus**」モードを追加しました⁴⁰。これにより発明提案書（発明届）の自動作成補助や、他の既存特許を参照しながらの高度な明細書ドラフト生成が可能となり、**特許出願文案作成の精度が大幅向上**しています⁴¹⁴²。Tokkyo.aiも**LLM選択機能**を備えており、ユーザーが**従来モデルとChatGPT-4o**搭載の新モデルを用途に応じ選べるようになっています¹⁷。価格面では**月額15,000円程度**から利用できる有料サービス（無料トライアル2週間）で、**生成AIによる明細書ドラフトや先行技術検索**、さらに**画像入力による商標類似検索**など幅広い知財業務をサポートします⁴³⁴⁴。サマリアとの比較では、Tokkyo.aiは**出願書類作成支援**に強みがあり、社内で機密データを扱いつつAI活用できる点を訴求しています。ただし読解・要約のインタラクティブ性やUIの分かりやすさではサマリアに軍配が上るとの評価もあり、両者は適用領域で住み分けが進んでいます。

・**Amplified** – AI特許検索プラットフォーム（米国発）：英語圏を中心に展開するスタートアップで、**独自開発のニューラルネットワークモデルによる全文セマンティック検索**を売りにしています⁴⁵⁴⁶。ChatGPTなど汎用モデルは用いず、**特許コーパスで学習した専用LLM**を採用することで検索速度と精度を最適化しているとされています⁴⁷。入力した発明アイデアや特許全文に対し、表面的なキーワード一致に頼らず**技術的コンセプトの類似性**にもとづき関連特許を提示できる点が強みです⁴⁶。そのランキングアルゴリズムは**ノイズの少ない精度の高いサーチ結果**を返すよう調整されており、従来のキーワード検索では見落とす先行技術を発見できたケースも報告されています⁴⁸⁴⁹。Amplifiedは検索機能に特化する一方、サマリアのような対話型の要約・読解支援は限定的です。しかし近年はUI上でクレームチャート作成補助や被引用箇所のハイライト表示など**読解支援的な機能も追加**してきており、徐々に用途を広げています⁵⁰。モデル選択については、Amplifiedは**自社モデル一択**の形ですが、そのモデル自体を継続的にアップデート（特許データの追加学習等）しており、いわば**ドメイン特化型LLMで差別化**を図っています⁴⁷。日本語UIには未対応（特許検索は英語ベース、非英語特許は機械翻訳利用）ため、日本語での使いやすさではサマリアに劣ります¹²。一方で**米欧中の広範な特許データ**や高度な類似検索ニーズには応えられるため、グローバル企業ではAmplified+サマリアを併用し、前者で候補特許抽出、後方で内容精査という使い分け例も見られます。

・**その他のツール**： 上記以外にも**AI Samurai**（特許性チェック・明細書自動作成の老舗ツール）、**PatentSnap/AcclaimIP**（欧米の特許調査ソフトに要約機能を追加した例）⁵¹、**LexisNexis TechDiscovery**（機械学習で特許マップ生成）などが存在します⁵²⁵³。国内では**AI実務GPT**と称するチャットボット系の試みや、特許事務所向けの**Appia-engine**（明細書ドラフト特化）も登場しています⁵⁴⁵⁵。ただ、これらは機能が限定的だったり英語環境のみだったりするケースも多く、**総合力ではサマリアやPatentfieldが一歩リード**しているのが実情です⁵⁶¹²。

サマリアの「良い点」 – 他社ツールと比較したメリット

以上を踏まえ、サマリアが競合ツールと比較して評価されているポイントを整理します。

・**要約・回答精度の高さと専門性**: サマリアは汎用LLMに**独自工夫のプロンプト**を与えることで、特許特有の専門用語や長文をも的確に噛み砕いてくれます⁵⁷⁵⁸。開発者自身が弁理士であるため、「どう要約すれば実務で使えるか」を熟知しており、その実践知が反映された**高品質なアウトプット**が強みです¹⁵⁹。実際、「新人でも特許内容を短時間で把握できる」「読解コストが従来の5分の1になった」との声もあり⁶⁰¹、**要約精度と実用性で他社をリード**しています。

- 機能の総合力と先進性:** サマリアは特許の検索～読解～分析～出願対応まで、一連の知財業務フローをワンストップで支援できる点が際立ちます^{20 61}。競合の多くが検索特化型や要約特化型なのに対し、サマリアはスクリーニング支援（ノイズ特許の除外）⁶²、分類支援（タグ付け）⁶³、発明の評価（出願要否判断）⁵⁸、拒絶対応やレポート作成まで網羅しています^{4 8}。特に2025年リリースのレポート機能はグラフィカルな可視化分析まで可能にし、「サマリア1ツールで完結する」利便性が高く評価されました^{9 12}。この広い機能レンジは他に類を見ない独創的アプローチであり、知財部門の業務プロセスそのものを変革し得るとの評価も得ています^{64 65}。
- 日本語環境への最適化:** 国産サービスならではの強みとして、UIや出力結果が日本語に最適化されている点があります¹²。サマリアは日本語での質問入力・応答を得意とし、英中韓独仏の特許も自動翻訳して解析できます⁶⁶。競合Amplifiedが英語主体であるのに比べ、日本語話者が違和感なく使えるインターフェースは大きなメリットです¹²。また、生成されるサマリー文も平易な日本語表現となるよう工夫されており、「専門知識のない技術者でも内容を理解しやすい」と好評です^{33 34}。
- LLM選択の柔軟性と将来性:** 前述のように、サマリアは最新のGPT-5からClaudeまで複数モデルを使い分けられる柔軟性を持ちます。用途に応じて最適なAIを選べることは、精度向上だけでなくコスト管理の面でもメリットです。例えば「簡易な要約なら安価なモデルで十分だが、複雑な解析は最高性能モデルを使いたい」といったニーズに応えられるため、ユーザー自身が精度と費用対効果のバランスを取ることができます^{16 25}。競合ではPatentfield AIRが同様の機能を提供していますが、サマリアは早期からClaude採用に踏み切るなど先進的で、OpenAI/Anthropic以外のモデルも視野に入れる開放性があります^{6 22}。この柔軟な姿勢は将来の新モデル出現にも迅速に適應できる強みと言えます。
- UIの使いやすさとワークフロー統合:** サマリアのインターフェースはブラウザ上で直感的に操作でき、あらかじめ用意された質問テンプレートから選ぶだけでAIに質問可能な「クイックアシスト」機能も備わっています⁶⁷。これはユーザーがプロンプトを試行錯誤する手間を省き、必要な要約・分析をボタン一つで実行できる仕組みで、他社には見られない工夫です¹¹。また出力結果をWordやExcelにエクスポートできるため、社内稟議書や特許報告書のドラフト作成がそのまま行えます⁷。特許業務は従来様々なツールを使い分ける煩雑さがありましたが、サマリアはそうしたツール間の「つなぎ」をシームレスにする点でも評価されています。ユーザーからは「知財担当者の働き方を変えてくれるツール」との期待が寄せられており^{65 68}、現場の支持を得ています。
- コストパフォーマンス:** 2023年のサービス開始当初、サマリアはアカウント登録すれば全機能無償提供という破格の戦略を取りました⁶⁹。2024年後半に有料プランが導入されましたが⁷⁰、現在も無料トライアルや一部機能限定のフリープランが用意されている模様です。競合PatentfieldやAmplifiedが基本的に企業向け有料契約（数十万円～）であるのに比べ、サマリアは個人や中小企業でも導入しやすい価格体系といえます。例えばTokkyo.aiが月額1.5万円～なのに対し、サマリアのビジネスプランも近い水準でありつつ、前述の包括的機能が利用可能です⁴⁴。さらに処理件数無制限プランも検討中とされ、「実務で頻用しても費用対効果が高い」との評価があります。コスト面でのハードルの低さは、生成AI活用を社内で試しやすくする重要な要素であり、サマリア普及の追い風になっています。

サマリアの「良くない点」 – 指摘されている課題やデメリット

一方で、他社と比較した際にサマリアの弱点や今後の課題として挙げられる点も整理します。

- 特許検索機能の限界:** サマリアはあくまで読解支援に特化しており、自ら特許データベース検索エンジンを持つわけではありません。ユーザーは分析したい特許番号を入力して文書を読み込む必要があり、関連特許をゼロから探索する用途には向いていません（簡易的なAI類似検索機能はあるものの、網羅性は専用DBに劣ります）^{10 71}。大量の特許集合を扱う場合も、Patentfieldのように事前に全

件AI処理したデータがあるわけではなく、サマリア上で都度AI解析を実行する必要があります。このため、数百件規模の特許調査を行う場合、一件ごとの処理時間や手間がかかるという指摘があります。他社ではAmplifiedやIPRallyのように、発明の自然文を入力するだけで数十件の有望な先行技術候補が返ってくるツールもあり⁷²⁷³、探索の段階ではそれらに譲る場面があるようです。サマリア自身もゆくゆくは検索統合を進める可能性がありますが、現時点では「見つける」は他の専門ツール、「読んで理解する」はサマリアという使い分けが必要です。

- ・**大量処理時の速度・効率**: 上述の通り、サマリアはオンデマンドでAI処理を行うため、**処理件数や文章長によっては応答に時間がかかる**ケースがあります。例えば1件あたり数秒～数十秒のAI応答時間でも、100件まとめて実行すれば相当の待ち時間になります。PatentfieldはAIサマリーを前もって計算しデータベースに付与しているため、ユーザーは**遅延なく結果を得られる**強みがあります³¹³³。またPatentfield AIRでは軽量モデルの活用で**1件あたりの処理時間短縮**を図っています²⁵。サマリアも**一括処理機能**で複数特許を同時質問できるなど工夫していますが⁷⁴、根本的にはリアルタイム対話型AIゆえのコストが掛かります。**業務で大量の特許をスクリーニングする場面では、速度面でPatentfieldの方が有利**との評価もあり、サマリアには今後バックエンド処理の効率化が期待されます。
- ・**高度な検索クエリや分析指標への非対応**: サマリアは自然文での質問や要約生成が主体であり、例えば**特定フィールドに基づく特許絞り込み検索**（IPC分類や出願人名など複合条件検索）、**特許スコアリング**（被引用数や独占度合いによる定量評価）等の**伝統的な調査ニーズ**には直接応えられません。Patentfieldは詳細検索や独自の「PFスコア」（他社に引用された影響力指標）など高度な機能を備えており⁷⁵、**従来型の調査と生成AIの融合度**ではPatentfieldや欧米大手ツールが勝る部分があります⁷⁶⁷⁷。サマリアもレポート機能でグラフ可視化や件数集計は実現しましたが、これらはAI回答ベースの分析です。**既存の特許調査手法（パテントマップやファミリー分析など）とのハイブリッド**をどう高次元で提供するかは、サマリアの今後のチャレンジと言えるでしょう。
- ・**対応言語・グローバル展開**: サマリアは主要6言語の特許を扱えるものの、日本市場にフォーカスしたサービスであり、**インターフェースやサポート言語は日本語主体**です¹²。そのため海外のユーザーコミュニティ形成や英語UIでの微調整などは限定的です。AmplifiedやPatSnapといったグローバルツールは各国の顧客基盤を持ち、英語での情報発信も多いため、**国際会議や多国籍企業での認知度**でサマリアは遅れをとっています。ただ2025年の国際特許情報フェア出展などを機に徐々に名前が知られ始めており⁷⁸、今後は**英語版UIや海外パートナー提携**による展開も期待されます。技術的にはLLMが多言語対応しているため、**UIさえ対応すれば世界展開も可能なポテンシャル**がありますが、市場競争力を高めるには各国特許実務への対応チューニング（例えば米国特有のクレーム表現解釈など）が課題となるでしょう。
- ・**ドラフト自動作成機能の実績**: サマリアは拒絶応答文書の生成には踏み込んだものの、**特許明細書のフルドラフト生成**はこれからの機能です¹⁸。競合のAI SamuraiやTokkyo.aiは既に明細書下書き出力を実現しているため、その点で**サマリアは現時点で見劣り**すると見る向きもあります。ただし明細書作成は法的・技術的に高度な作業であり、「**精度重視で時間をかけてでも良い出力を出す**」サマリアの開発哲学との整合も必要です⁷⁹⁶¹。一部では「ドラフトは出せても修正に手間がかかるなら意味がない」との声もあり、サマリアが安易に機能追加しないのは**品質を担保するため**とも捉えられます⁸⁰。いずれにせよ、他社が先行する**自動ドラフティング分野への参入**がサマリアにとって急務であり、2026年の新機能提供に期待が集まります。
- ・**AIの限界と誤答リスク**: これはサマリアに限った話ではありませんが、LLMはしばしば「**それらしいが不正確な回答（幻想）**」を生成するリスクがあります。特許分野では些細な誤解釈が致命的な判断ミスにつながりかねず、AIの回答をそのまま鵜呑みにできません。他社ツールでもこの課題は共通で、例えばAmplifiedでもAI提案は人間が必ず検証する前提です⁸¹。サマリアは対策として回答に**出典や理由付け**を含める工夫を凝らしています⁸²（AIが「検討結果」や「評価理由」を説明する）や、

チェックリスト出力による人間確認箇所の提示⁸³など行っています。しかし完全には防ぎきれず、「生成AIの回答を過信しすぎない運用ルール」の整備が重要です。この点、特許実務家からは「人間が高度判断に専念できるよう下準備をAIがするのが理想⁸⁴。サマリアはそこを目指しているが、最後の法的判断は人が行う前提は変えないで欲しい」との意見も聞かれます。要するに、AIと専門家の役割分担を誤らないことが肝心であり、サマリア含む各ツールには誤答時の責任範囲明示や、ユーザー教育が求められるでしょう。

以上のように、サマリアは現在総合力で他社を一步リードしている評価を得つつも⁸⁵¹²、今後さらに検索領域との融合や国際展開、完全自動化への過信抑制などクリアすべき課題があります。ただし同時に豊富な特許関連特許群（2025年時点で登録10件・出願中含め15件⁸⁶）で技術優位性を固め、競合他社には容易に真似できない独自性を築いている点も見逃せません⁸⁷。総じて、LLM選択機能を含むサマリアの最新アップデートはユーザーから高く評価されており、「知財実務を効率化する頼れるAIパートナー」とのポジションを確立しつつあります²¹⁶⁵。各社との機能競争は激化する見込みですが、サマリアは引き続き実務目標の開発哲学と迅速な機能拡充によって、その優位性を維持・強化していくと考えられます。

参考文献・出典: サマリア公式プレスリリース【3】【4】【28】、パテント・インテグレーション社ニュース【16】、よろず知財コンサルティングの分析レポート【30】【31】【34】、競合各社プレスリリース【23】【42】、その他公開情報など。

1 2 8 9 10 11 12 13 14 19 20 21 36 37 51 56 59 61 64 65 68 69 71 78 79 85 86 87 サマリア新機能「レポート機能」と知財情報フェア出展：内容と評価

<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/1c59c98a0ad20f33df46.pdf>

3 6 26 84 新機能「拒絶対応支援ワークフロー」をリリース | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000086119.html>

4 5 7 18 83 「サマリア」の大幅アップデート 新機能「応答方針コメント/意見書案・補正書案」作成機能のリリース、分析ツールで「AI定量解析」が可能にー | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000086119.html>

15 ダウンロード項目のアップデートサマリアウェビナー・知財情報...

https://patent-i.com/summaria/manual/R_20250826

16 29 調査目的を伝えるだけで自動特許調査の実現目指すPatentfield

<https://yorozuipsc.com/blog/september-15th-2025>

17 39 40 41 42 43 44 ChatGPT-4oを実装、AI特許ツールがさらに進化！Tokkyo.Aiが最新アップデート「Genesis」を発表 | リーガルテック株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000205.000042056.html>

22 23 24 70 74 Home

<https://yorozuipsc.com/index.html>

25 Patentfield「2025知財・情報フェア&コンファレンス」出展のお知らせ | Patentfield株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000057.000025380.html>

27 28 38 「AI特許総合検索・分析プラットフォーム Patentfield」および「Patentfield AIR」に対する4件の特許権に基づく6件の特許権侵害訴訟提起のお知らせ（3） | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000086119.html>

30 31 32 33 34 35 [Patentfield] 生成AIで8000万件の特許を「見える化」。AIサマリー機能をリリース！グローバル特許にも対応したAIサマリーグローバルを10/1にリリースします。(2025年9月12日) - エキサイトニュース

https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2025-09-12-25380-59/

45 46 48 49 50 72 73 76 77 81 Which AI Patent Tools Actually Work Well in 2025?

<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/ai-patent-tools-that-work-2025/>

47 How Amplified.ai Keeps Innovation Out of the Shadows - Fly.io

<https://fly.io/customer-stories/amplified-ai/>

52 53 54 55 知財業務向け生成AIツール | のがみ

<https://note.com/phasephi/n/nbf69fae5cbab>

57 58 62 63 80 82 特許読解アシスタント「サマリア」に知財実務を支援する革新的な3つの機能が追加
【サービス無料提供中】 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>

60 特許情報分析 #生成AI 実務を変革する高度な分析と戦略的活用術 - note

https://note.com/yu_py/n/na882845810f1

66 サマリア(Summaria) | 特許文書読解支援サービス

<https://patent-i.com/summaria/offer/WO2021/123326>

67 特許文書のアップロード | 特許文書読解アシスタント・サマリア

https://patent-i.com/summaria/manual/upload_document

75 Patentfield | AI特許検索・特許分析・特許調査データベース

<https://patentfield.com/>